

2017年度 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社

2018年5月18日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

富士フイルムホールディングス株式会社 2017年度決算について、説明させていただきます。

2017年度 業績 (2017年4月～2018年3月)

(単位：億円)

	2016年度	2017年度	対2016年度	為替影響	為替影響除く
売上高	23,222 100.0%	24,334 100.0%	1,112 +4.8%	552	560 +2.4%
一時費用除く 営業利益	1,764 7.6%	2,007 8.2%	243 +13.8%	158	85 +4.8%
構造改革費用等 一時費用	41	700	659	0	659
営業利益	1,723 7.4%	1,307 5.4%	-416 -24.1%	158	-574 -33.3%
税金等調整前 当期純利益	1,948 8.4%	1,978 8.1%	30 +1.6%	102	-72 -3.7%
当社株主帰属 当期純利益	1,315 5.7%	1,407 5.8%	92 +7.0%	70	22 +1.6%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	296.27円	322.62円	26.35円	<その他増減要因(対前年度)> 営業利益 原材料：-69億円	
ROE	6.5%	6.8%	+0.3%		
為替：米ドル	108円	111円	3円安		
：ユーロ	119円	130円	11円安		

2017年度売上高は、電子映像事業、メディカルシステム事業、電子材料事業などで売上を伸ばし、前年比4.8%増の2兆4,334億円となりました。

営業利益は、ドキュメント事業における構造改革費用などの一時費用700億円を計上しており、前年比24.1%減の1,307億円となりました。

尚、一時費用の影響を除いたオペレーションベースでは前年比13.8%増の2,007億円となりました。

税金等調整前当期純利益は、和光純薬工業の連結子会社化による和光株式の評価益、また、資産効率向上のための政策保有株式売却益などの計上により、前年比1.6%増の1,978億円、当社株主帰属当期純利益は、前年比7.0%増の1,407億円で過去最高益となりました。

セグメント別 連結売上高／営業利益

(単位：億円)

売上高	通期		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2016年度	2017年度			
イメージング	3,418	3,830	412 (+12.1%)	141	271 (+7.9%)
ヘルスケア	3,840	4,430	590 (+15.3%)	89	501 (+13.0%)
ヘルスケア&マテリアルズ	8,995	10,026	1,031 (+11.5%)	203	828 (+9.2%)
ドキュメント	10,809	10,478	-331 (-3.1%)	208	-539 (-5.0%)
合計	23,222	24,334	1,112 (+4.8%)	552	560 (+2.4%)

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益	通期		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2016年度	2017年度			
イメージング	368	560	192 (+52.0%)	64	128 (+34.7%)
ヘルスケア	124	207	83 (+67.0%)	38	45 (+36.4%)
ヘルスケア&マテリアルズ	830	928	98 (+11.8%)	62	36 (+4.3%)
一時費用除く営業利益	827	840	13 (+1.6%)	33	-20 (-2.4%)
ドキュメント	827	140	-687 (-83.1%)	33	-720 (-87.1%)
全社/連結調整	-302	-321	-19	-1	-18
合計	1,723	1,307	-416 (-24.1%)	158	-574 (-33.3%)

まず、はじめに従来インフォメーション ソリューションとして開示してきた事業分野の名称を2017年度決算よりヘルスケア&マテリアルズ ソリューションに変更しました。

なお、この変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

それでは、セグメント別の状況について説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、
前年比12.1%増の3,830億円、
営業利益は、前年比52.0%増の560億円となりました。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門の売上高は、
前年比11.5%増の1兆26億円
営業利益は、前年比11.8%増の928億円となりました。

同部門のうち、ヘルスケアの売上高は
前年比15.3%増の4,430億円、
営業利益は、前年比67.0%増の207億円となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、
前年比3.1%減の1兆478億円、
営業利益は前年比83.1%減の140億円となりました。
なお、構造改革費用等一時費用を除いた営業利益は
前年比1.6%増の840億円となります。

セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
3,830	412 (+12.1%)	560	192 (+52.0%)

(単位：億円)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”とチェキフィルムのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移。年度計画の750万台を上回る770万台を販売。「WALL DECOR」「フォトブック」などの付加価値プリントビジネスも堅調。
- ・ 電子映像では、2月発売の「FUJIFILM X-A5」や3月発売の「FUJIFILM X-H1」などのXシリーズ、大型センサー搭載中判ミラーレス「FUJIFILM GFX 50S」および交換レンズの販売が好調で大幅増収。
- ・ 光学デバイスでは、各種産業用レンズやシネマカメラ用レンズ「MKレンズ」シリーズの販売が好調に推移し、売上が増加。収益性が大きく改善。

電子映像事業の売上が大幅に増加
各事業も好調に推移し、増収大幅増益

イメージング ソリューション部門について説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移しました。チェキは年度計画の750万台を上回る770万台を販売しました。また、スクエアフォーマットを採用したスマートフォン用プリンター「instax SHARE SP-3」など、新たな楽しみ方を提案することでスマートフォンユーザーのプリント需要を開拓していきます。さらに、「WALL DÉCOR」「フォトブック」などの付加価値プリントビジネスも堅調に推移しました。

電子映像では、2月に発売した「FUJIFILM X-A5」や3月に発売した「FUJIFILM X-H1」などのXシリーズ、大型センサー搭載中判ミラーレスカメラ「FUJIFILM GFX 50S」および交換レンズの販売が好調に推移し、大幅増収となりました。人々の記憶に残る鮮やかな色を再現する独自技術による圧倒的な描写力や、36種の豊富なレンズのラインアップがプロ写真家や写真愛好家から高く評価されています。

光学デバイスでは、車載用やプロジェクター用などの各種産業用レンズや市場が拡大しているWeb映像などの動画撮影向け新シリーズであるシネマカメラ用レンズ「MKレンズ」の販売が好調に推移し、売上が増加。営業利益においても収益性が大きく改善しています。

イメージング ソリューション部門は、電子映像事業が大幅に売上を伸ばしたほか、各事業の販売が好調に推移し、対前年増収大幅増益となりました。

セグメント別 概況

ヘルスケア&マテリアルズ
ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
10,026	1,031 (+11.5%)	928	98 (+11.8%)

- ヘルスケアで、メディカルシステムは、体外診断や医療ITなどすべての分野で販売が好調に推移。医薬品は、FF-10832の臨床第 I 相試験を本年5月から米国で開始するなどパイプラインの開発を着実に推進。診断薬・治療薬の新薬開発を加速させるため、富山化学工業を完全子会社化し、富士フイルムRIファームと2018年10月付で統合することを決定。
- 高機能材料で、ディスプレイ材料は、在庫調整などの影響でタック製品の販売は減少したが、有機EL関連などの新規分野での販売が伸長。電子材料はフォトレジストやフォトリソ周辺材料の先端製品を中心に販売が好調に推移し、売上が増加。
- 記録メディアは、大容量データストレージ用磁気テープの在庫調整などの影響で売上が減少。グラフィックシステムは、製版・刷版材料の総需減により売上は減少。インクジェット事業はインクおよび産業用インクジェットヘッドなどの販売が好調に推移。

メディカルシステム事業・電子材料事業などでの販売好調に加え
各事業の収益性向上により増収増益

続いてヘルスケア&マテリアルズソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、メディカルシステムは、成長分野である体外診断(IVD)システム、医療ITを始めとしたすべての分野で販売が好調に推移しました。

バイオCDMOは、バイオ医薬品のプロセス開発・製造受託が好調に推移しました。顧客からの増産要請や今後のさらなる需要拡大に迅速に 대응するため、本年1月には、米国テキサス拠点に建設した生産棟の稼働を開始しました。医薬品は、進行性の固形がんを適応症とする抗がん剤「ゲムシタピン」をリポソームに内包したリポソーム製剤FF-10832の臨床第 I 相試験を、本年5月に米国で開始するなど、パイプラインの開発を着実に推進しています。さらに、診断薬と治療薬の新薬開発を加速させるため、富山化学工業を完全子会社化し、富士フイルムRIファームと2018年10月付で統合することを決定しました。

再生医療は、「ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング」の売上が好調に推移しました。

2018年3月には、培地のリーディングカンパニー「Irvine Scientific Sales Companyとアイエスジャパン」の買収を発表しました。今後、培地ビジネスを更に加速します。

ライフサイエンスは、美白化粧品「アスタリフト ホワイト ブライトローション」や、機能性表示食品「メタバリアS」などの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

高機能材料のうち、ディスプレイ材料は、第2四半期における在庫調整などの影響でタック製品の販売は減少しましたが、有機EL関連などの新規分野での販売が伸長しました。

産業機材は、「エクスクリア」や「プレスケール」の販売が好調に推移しました。

電子材料は、フォトレジストやフォトリソ周辺材料の先端製品を中心に販売が好調に推移し、売上が増加しました。半導体市場が拡大する中、幅広い製品ラインアップで市場成長率を上回る高い成長を実現しています。

ファインケミカルは、紙おむつなどに使用される高吸水性樹脂の原料となる重合開始剤などの高機能化成品の売上が伸長しました。

記録メディアは、大容量データストレージ用磁気テープの在庫調整などの影響で売上が減少しました。

グラフィックシステムでは、製版・刷版材料の総需減により売上は減少しました。インクジェットデジタルプレスの販売を強化するとともに、デジタル化が進む印刷市場において、最適な製品・ソリューションを提案していきます。

インクジェットは、インクおよび産業用インクジェットヘッドなどの販売が堅調に推移しました。これまで注力してきた分野に加え、テキスタイルなど新たな領域へ独自の製品を展開し、事業を拡大していきます。

ヘルスケア&マテリアルズソリューション部門は、メディカルシステム事業や電子材料事業で売上を伸ばしたことに加え、各事業の収益性向上により増収増益となりました。

セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

売上高	対前年度		営業利益	前年比	
10,478	-331	(-3.1%)	140	-687	(-83.1%)

(単位：億円)

- ・ オフィスプロダクト分野では、国内やオセアニア地域で複合機の販売台数が減少したが、欧米向け輸出や中国での販売が好調に推移し、全体の販売台数は対前年増加。オフィスプリンター分野では、低採算のプリンタービジネスの縮小により、販売台数が減少。
- ・ プロダクションサービス事業は、年間の販売台数は減少したが、2017年11月に発売した高速・高画質のカラー・オンデマンド・パブリッシング機の販売が好調に推移。2018年2月には、モノクロ高速プロダクションプリンターのラインアップを一新し、売上拡大を目指す。
- ・ ソリューション&サービス事業は、図面管理ソリューションなどの業種業務別ソリューションの販売が好調に推移したことに加え、既存のBPO契約に対する売上も堅調に推移したものの、会計処理の変更により売上は減少。

欧米向け輸出や中国での販売が好調だったものの、低採算のローエンドプリンタービジネスの縮小等により減収構造改革費用等一時費用の発生により減益

6

最後に、ドキュメント ソリューション部門について説明します。

オフィスプロダクト・プリンター事業のオフィスプロダクト分野では、国内やオセアニア地域で複合機の販売台数が減少したものの、中国や欧米向け輸出で販売が好調に推移し、全体の販売台数は対前年で増加しました。オフィスプリンター分野では、低採算のプリンタービジネスの縮小などにより台数、売上が減少しました。

プロダクションサービス事業は、年間の販売台数は減少しましたが、昨年11月に販売を開始した、高速・高画質のカラー・オンデマンド・パブリッシング機「Iridesse Production Press」の販売が好調に推移しました。また、2月にはモノクロ高速プロダクションプリンターのラインアップを一新し、オフィス市場、グラフィックアーツ市場から基幹出力業務まで幅広い業務を支援し、売上拡大を目指します。

ソリューション・サービス事業は、業種・業務別ソリューションの販売が堅調に推移したことに加え、既存のBPO契約に対する売上も堅調に推移したものの、会計処理の変更により売上は減少しました。

ドキュメントソリューション部門は、売上高は低採算のローエンドプリンタービジネスの縮小やオセアニア地域での販売減少により減収となりました。営業利益は、構造改革費用等の一時費用の影響により、減益となりました。引き続き、ソリューション・サービスなどの成長領域の拡大や、オセアニア地域での販売回復に努めるとともに、経費削減および原価改善施策の追加・加速等で収益性を高めていきます。

連結貸借対照表

					(単位：億円)				
	15年度末	16年度末	17年度末	対16年度末		15年度末	16年度末	17年度末	対16年度末
現金及び現金同等物	6,009	8,760	7,682	-1,078	長短社債及び借入金	3,657	5,588	4,542	-1,046
受取債権	6,436	6,358	6,191	-167	支払債務	2,571	2,579	2,485	-94
棚卸資産	3,492	3,392	3,613	221	その他流動固定負債	4,572	4,484	4,915	431
その他流動資産	1,726	1,838	1,122	-716	負債計	10,800	12,651	11,942	-709
流動資産計	17,663	20,348	18,608	-1,740	株主資本計	20,148	20,436	20,791	355
有形固定資産	5,326	5,206	5,375	169	非支配持分	2,172	2,245	2,196	-49
営業権	5,069	4,998	5,916	918	純資産計	22,320	22,681	22,987	306
投資有価証券 その他資産	5,062	4,780	5,030	250	負債・純資産合計	33,120	35,332	34,929	-403
固定資産計	15,457	14,984	16,321	1,337	(単位：円)				
資産合計	33,120	35,332	34,929	-403	期末日為替レート	15年度末	16年度末	17年度末	対16年度末
					米ドル	113	112	106	6円高
					ユーロ	128	120	131	11円安

次に、バランスシートについて説明します。

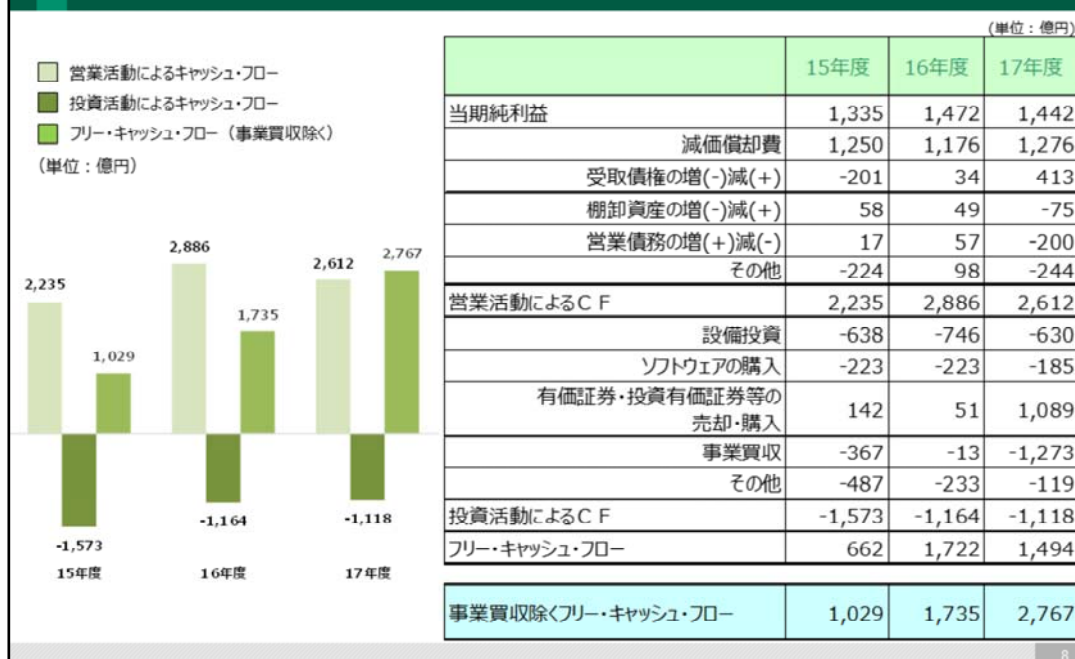
2018年3月末時点の資産合計は、

現金および現金同等物の減少などにより、2017年3月末時点と比べ、403億円減の3兆4,929億円となりました。

負債は709億円減の1兆1,942億円、株主資本は355億円増の2兆791億円となりました。

流動比率は、19.1ポイント減の280.1%、負債比率は4.5ポイント減の57.4%、株主資本比率は1.7ポイント増の59.5%となりました。

キャッシュ・フロー



続いて、キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費に加えて受取債権の減少などにより、2,612億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、和光純薬工業の事業買収などにより、1,118億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、1,494億円の収入となりました。

富士ゼロックスにおける構造改革

国内外10,000人の人員削減を含む構造改革の実施
2019年度以降、550億円/年のコスト削減効果
新たな成長領域における事業基盤の確立

前回	2017年度	2018年度	2019年度
構造改革費用等一時費用	490億円(下期) 570億円(通期)	170億円	60億円
効果	-	250億円	500億円

今回(5/18)	2017年度	2018年度	2019年度
構造改革費用等一時費用	700億円(通期)	250億円	60億円
効果	-	270億円	550億円
人員削減数	3,000人	4,000人	3,000人

1月31日に発表した富士ゼロックスの構造改革について、進捗をご報告いたします。

2017年度の構造改革費用等一時費用は、通期で700億円となりました。

2018年度の見込金額は、1月31日にお伝えしました170億円から250億円に変更します。

構造改革の効果は、2018年度に20億円、2019年度以降の各年度で前回公表しました金額に50億円の効果を増額できる見通しです。

本構造改革を確実に実行して、コスト削減を実現し、市場の変化・競争に耐える収益性・生産性を確保しつつ、新たな成長領域へ再投資し、持続的な成長を実現できる事業基盤を確立します。

以上、2017年度決算についてご説明いたしました。

2017年度 決算説明会

2018年度 業績予想

2018年5月18日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

続きまして、2018年度通期の連結業績予想についてご説明いたします。

2018年度 連結業績予想 (2018年5月18日時点)

(単位：億円)

	2017年度	2018年度	対前年度
売上高	24,334 100%	25,100 100%	766 +3.1%
営業利益	1,307 5.4%	2,000 8.0%	693 +53.0%
税金等調整前 当期純利益	1,978 8.1%	2,050 8.2%	72 +3.6%
当社株主帰属 当期純利益	1,407 5.8%	1,300 5.2%	-107 -7.6%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	322.62円	302.16円	-20.46円
ROE	6.8%	6.2%	-0.6%
為替 : 米ドル	111円	110円	1円高
: ユーロ	130円	130円	-
銀価格 (/kg)	61,000円	62,000円	+1,000円

	2017年度	2018年度
一時費用除く 営業利益	2,007	2,250
構造改革費用等 一時費用	700	250
営業利益	1,307	2,000

*2018年度 営業利益 為替感応度 米ドル：8億円、ユーロ：8億円

11

2018年度の売上高は、前年比3.1%増の2兆5,100億円を計画しております。

営業利益は、売上成長に加え、各事業の収益性改善等により、前年比53.0%増の2,000億円を計画しています。

尚、営業利益には富士ゼロックスにおける構造改革に伴う費用等で、ドキュメントソリューションに250億円の一時費用の計上が見込まれます。

これらの一時費用を除くと、営業利益は、前年比12.1%増の2,250億円となります。

税金等調整前当期純利益は、前年比3.6%増の2,050億円、当社株主帰属当期純利益は、前年比7.6%減の1,300億円を計画しています。

ROEは、6.2%を目標とします。

2018年度 セグメント別業績予想 (2018年5月18日時点)

(単位: 億円)

売上高	2017年度	2018年度	対前年度
イメージング	3,830	4,000	170 (+4.4%)
ヘルスケア	4,430	4,750	320 (+7.2%)
ヘルスケア&マテリアルズ	10,026	10,600	574 (+5.7%)
ドキュメント	10,478	10,500	22 (+0.2%)
合計	24,334	25,100	766 (+3.1%)

*セグメント間取引消去後

営業利益	2017年度	2018年度	対前年度
イメージング	560	600	40 (+7.1%)
ヘルスケア	207	210	3 (+1.4%)
ヘルスケア&マテリアルズ	928	910	-18 (-1.9%)
ドキュメント	140	820	680 (5.9倍)
全社/連結調整	-321	-330	-9
合計	1,307	2,000	693 (+53.0%)

	2017年度	2018年度
一時費用 除く 営業利益	840	1,070
構造改革 費用等 一時費用	700	250
営業利益	140	820

こちらは、セグメント別の売上高、営業利益の業績予想です。

イメージングソリューションの売上高は、前年比4.4%増の4,000億円、
営業利益は、前年比7.1%増の600億円を計画しております。

ヘルスケア&マテリアルズソリューションの売上高は、前年比5.7%増の1兆600億円
営業利益は、前年比1.9%減の910億円を計画しております。
そのうち、ヘルスケア事業の売上高は前年比7.2%増の4,750億円、
営業利益は前年比1.4%増の210億円となります。

ドキュメントソリューションの売上高は、前年比0.2%増の1兆500億円、
営業利益は対前年5.9倍の820億円を計画しております。

尚、ドキュメントソリューションにおける構造改革等の一時費用を除く営業利益は、前年比
27.4%増の1,070億円です。

2018年度業績予想のポイント

イメージング ソリューション

フォトイメージングは、インスタントカメラ“チェキ”とチェキフィルムのインスタントフォトシステムを欧米に加え、新興国市場でも拡販し、収益を拡大。
光学・電子映像は、成長領域であるミラーレスのハイエンド機や、4Kや8Kに対応した放送用レンズなどの高付加価値製品に注力し収益性を向上。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション

メディカルシステムは、医療IT・内視鏡・超音波・IVD(体外診断)の分野で売上を拡大。バイオCDMO事業は、開発・生産体制を強化。
電子材料は、先端フォトリソ周辺材料などの販売を加速。
グラフィックシステム、産業機材などの各事業においても収益性を向上。

ドキュメント ソリューション

Smart Work Innovation戦略のもと、独自のAI技術とIoT・IoH^{*1}技術を活用した新たなサービスの提供や製品ラインアップ強化による売上成長に加え、RPA^{*2}を活用した生産性改善、および構造改革等の施策を進め収益性を改善。

*1:Internet of Human *2:Robotic Process Automation

13

2018年度業績予想におけるポイントを、セグメント別にご説明いたします。

イメージング ソリューション部門において、

フォトイメージングは、2017年度にインスタントカメラ“チェキ”の販売が好調であった欧米に加えて、新興国市場でも拡販し、事業を拡大していきます。

光学・電子映像は、成長領域であるミラーレスのハイエンド機や、4Kおよび8K対応放送用レンズなどの付加価値の高い製品に注力することにより収益性を大幅に向上させます。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門のうち、

ヘルスケア領域では、メディカルシステムとバイオCDMOが売上成長を牽引します。

メディカルシステムは、画像処理技術をベースにしたX線画像診断機器、医療IT、内視鏡、超音波および体外診断などの幅広いラインアップを活かし、競争優位性の高い医療ITを核とした総合的なソリューション提案を強化します。バイオCDMO事業は、開発・生産体制を強化し事業成長を目指します。

電子材料事業では、先端フォトリソ周辺材料などの販売を加速します。

その他、グラフィックシステム、産業機材、ファインケミカル、インクジェット等においても引き続き収益性を向上させていきます。

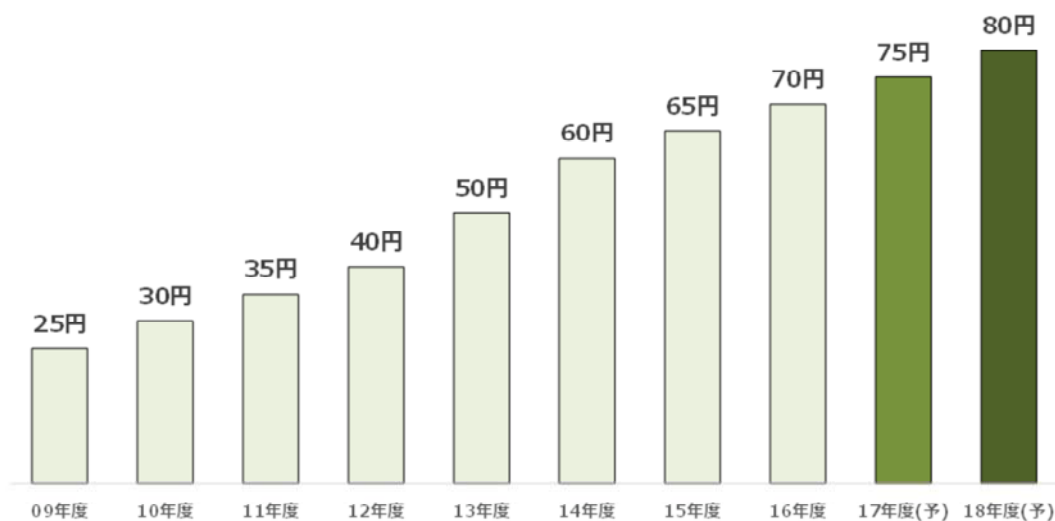
ドキュメント ソリューション部門では、

新たな価値提供戦略である「Smart Work Innovation」のもと、独自のAI技術とIoT・IoH技術を活用したソリューションサービスの提供や製品ラインアップ強化により、売上成長を目指すとともに、ロボティックプロセスオートメーションを活用した生産性の改善に加え、構造改革等の施策を進めることで収益性を改善させていきます。

株主還元

■ 配当金

2018年度の配当金は、9期連続増配となる対前年5円増配の80円/株を予定



14

最後に株主還元についてご説明いたします。

配当金について、
2017年度の年間配当金は、対前年5円の増配となる、1株当たり75円、
2018年度の年間配当金は、9期連続増配となる対前年5円増配の1株当たり80円を予定しております。

以上、2018年度通期の連結業績予想について説明いたしました。

2017年度 決算説明会

ガバナンス強化の取り組みについて

15

ガバナンス強化の取り組みについてご説明します。

ガバナンス強化の取り組み

➤ 新たに女性の社外取締役候補を選定

➤ 指名報酬委員会（任意）の設置を決定

社外取締役のさらなる積極活用により
取締役会審議の充実及び経営の意思決定の透明性を向上

16

本日開催の取締役会において、独立社外取締役を4名に増員することを決議し、本年6月28日に予定されている株主総会承認後に新たな役員構成に変更いたします。

新任となる候補者は、一般社団法人世界経済フォーラムJapan 日本代表の江田麻季子氏であります。

またコーポレートガバナンスの一層の充実のため、独立社外取締役を委員長とした任意の指名報酬委員会を設置いたします。CEOのサクセッションプランや取締役の報酬等に関する手続きについて、社外取締役の知見および助言を活かしてまいります。

ご説明しました通り、当社は独立社外取締役を積極活用し、取締役会審議のさらなる充実および経営の意思決定の透明性向上を図ってまいります。

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

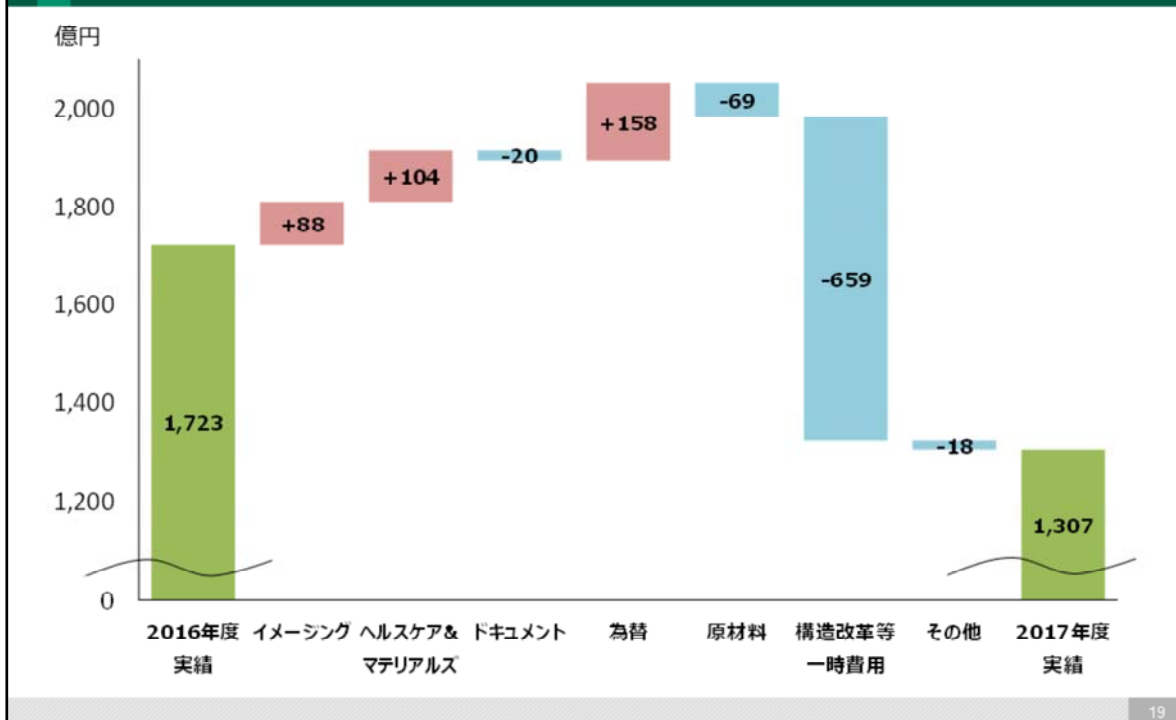
富士フィルム ホールディングス株式会社
経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

2017年度 決算説明会

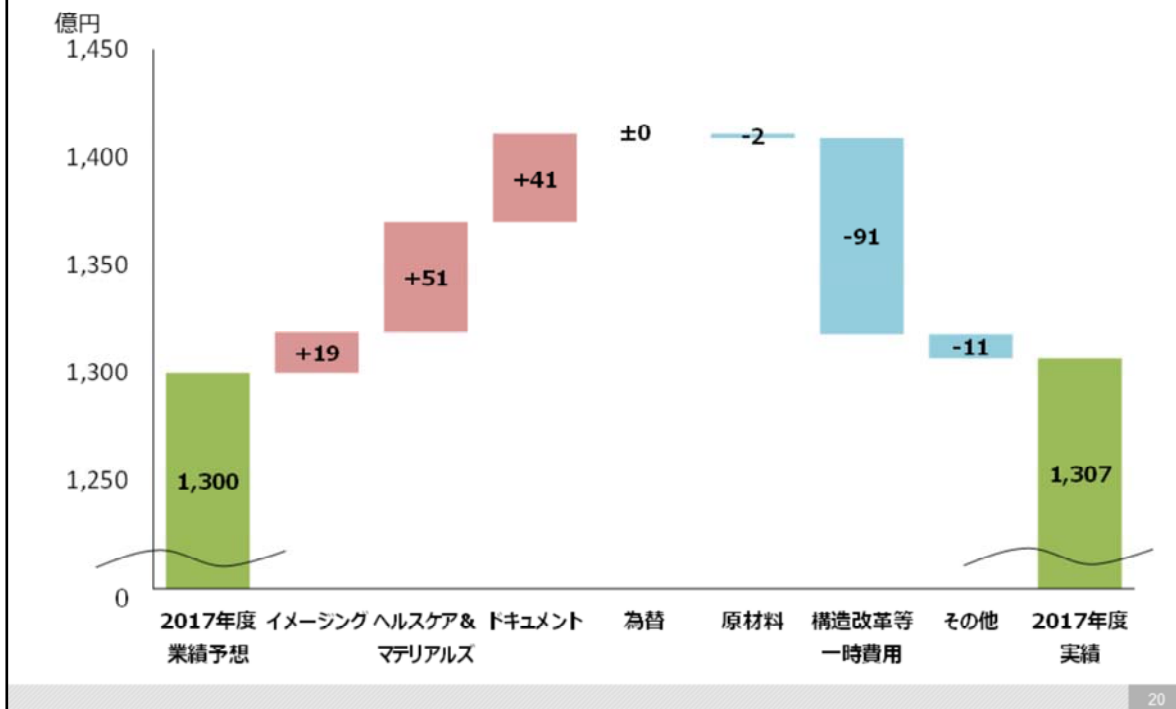
参考資料

営業利益増減分析(通期 対前年実績)



<当スライドは配付資料です>

営業利益増減分析(通期 対業績予想)



<当スライドは配付資料です>

4Q/通期 業績

(単位：億円)

	2016年度4Q	2017年度4Q	対2016年度4Q	2016年度	2017年度	対2016年度
売上高	6,299 100.0%	6,237 100.0%	-62 -1.0%	23,222 100.0%	24,334 100.0%	1,112 +4.8%
一時費用除く 営業利益	540 8.6%	555 8.9%	15 +2.8%	1,764 7.6%	2,007 8.2%	243 +13.8%
構造改革費用等 一時費用	0	534	534	41	700	659
営業利益	540 8.6%	21 0.3%	-519 -96.1%	1,723 7.4%	1,307 5.4%	-416 -24.1%
税金等調整前 当期純利益	643 10.2%	233 3.7%	-410 -63.8%	1,948 8.4%	1,978 8.1%	30 +1.6%
当社株主帰属 当期純利益	528 8.4%	162 2.6%	-366 -69.3%	1,315 5.7%	1,407 5.8%	92 +7.0%
為替 : 米ドル	114円	108円	6円高	108円	111円	3円安
: ユーロ	121円	133円	12円安	119円	130円	11円安

<その他増減要因(4Q/通期 対前年度)> 営業利益 原材料：-16億円 / -69億円

21

<当スライドは配付資料です>

4Q/通期 業績

(単位: 億円)

売上高	4Q			通期		
	2016年度	2017年度	対前年度	2016年度	2017年度	対前年度
イメージング	843	853	10 (+1.2%)	3,418	3,830	412 (+12.1%)
ヘルスケア	1,234	1,339	105 (+8.4%)	3,840	4,430	590 (+15.3%)
ヘルスケア&マテリアルズ	2,571	2,743	172 (+6.7%)	8,995	10,026	1,031 (+11.5%)
ドキュメント	2,885	2,641	-244 (-8.5%)	10,809	10,478	-331 (-3.1%)
合計	6,299	6,237	-62 (-1.0%)	23,222	24,334	1,112 (+4.8%)

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q			通期		
	2016年度	2017年度	対前年度	2016年度	2017年度	対前年度
イメージング	84 [9.9%]	60 [7.0%]	-24 (-29.0%)	368 [10.7%]	560 [14.5%]	192 (+52.0%)
ヘルスケア	110 [8.9%]	133 [9.9%]	23 (+21.0%)	124 [3.2%]	207 [4.7%]	83 (+67.0%)
ヘルスケア&マテリアルズ	273 [10.6%]	316 [11.5%]	43 (+15.9%)	830 [9.2%]	928 [9.2%]	98 (+11.8%)
一時費用除く営業利益	261 [9.0%]	269 [10.2%]	8 (+3.1%)	827 [7.6%]	840 [8.0%]	13 (+1.6%)
ドキュメント	261 [9.0%]	-265 -	-526	827 [7.6%]	140 [1.3%]	-687 (-83.1%)
全社/連結調整	-78	-90	-12	-302	-321	-19
合計	540 [8.6%]	21 [0.3%]	-519 (-96.1%)	1,723 [7.4%]	1,307 [5.4%]	-416 (-24.1%)

22

<当スライドは配付資料です>

4Q(3ヶ月) セグメント別 ハイライト

イメージングソリューション

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”とチェキフィルムのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移。
- ・ 電子映像では、2月発売の「FUJIFILM X-A5」や3月発売の「FUJIFILM X-H1」などのXシリーズや大型センサー搭載中判ミラーレス「FUJIFILM GFX 50S」および交換レンズの販売が好調。

ヘルスケア&マテリアルズソリューション

- ・ ヘルスケアで、メディカルシステムは、体外診断(IVD)システム、医療ITを始めとしたすべての分野で販売が好調に推移。バイオCDMOでは、バイオ医薬品のプロセス開発・製造受託が好調に推移。2月に富山化学工業の医薬品生産拠点にリボソーム製剤の治験薬製造や商業生産を行う新工場の建設を決定。また、3月には、培地のリーディングカンパニー「Irvine Scientific Sales Company, Inc.」「株式会社アイエスジャパン」の買収を発表。
- ・ 高機能材料で、ディスプレイ材料は、有機EL関連などの新規分野での販売が伸長。産業機材は、「エクスクリア」の販売が好調。電子材料は先端フォトリソ周辺材料の販売が好調に推移し、売上が増加。

ドキュメントソリューション

- ・ 売上高は、中国での販売や欧米向け輸出が好調に推移したものの、低採算のプリンタービジネスの縮小やオセアニア地域での販売減少により減収。3月に新たな価値提供戦略として「Smart work Innovation」を発表、AIおよびIoT・IoH*1技術を活用した新たなサービスを順次提供。
- ・ 営業利益は、構造改革費用等の一時費用の発生により減益。

*1: Internet of Human

23

<当スライドは配付資料です>

4Q/通期 業績

■ イメージング ソリューション

(単位：億円)

売上高	4Q				通期			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
フォトイメージング	539	546	7 (+1.3%)	12 (+2.2%)	2,368	2,554	186 (+7.8%)	95 (+4.0%)
電子映像	211	205	-6 (-2.9%)	-8 (-3.9%)	698	888	190 (+27.2%)	152 (+21.8%)
光学デバイス	93	102	9 (+9.7%)	9 (+9.8%)	352	388	36 (+10.4%)	24 (+6.9%)
光学・電子映像	304	307	3 (+0.9%)	1 (+0.3%)	1,050	1,276	226 (+21.6%)	176 (+16.8%)
合計	843	853	10 (+1.2%)	13 (+1.5%)	3,418	3,830	412 (+12.1%)	271 (+7.9%)

*セグメント別取引済金額

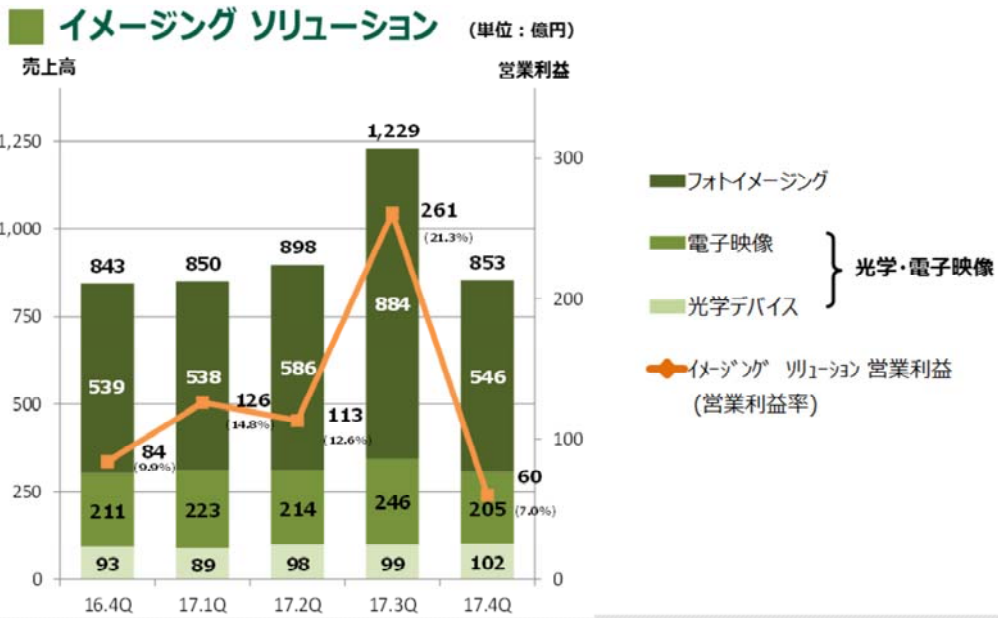
(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q				通期			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
イメージング	84 [9.9%]	60 [7.0%]	-24 (-29.0%)	-27 (-32.1%)	368 [10.7%]	560 [14.5%]	192 (+52.0%)	128 (+34.7%)

24

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移



<当スライドは配付資料です>

4Q/通期 業績

■ ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション

(単位:億円)

売上高	4Q				通期			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	1,234	1,339	105 (+8.4%)	105 (+8.3%)	3,840	4,430	590 (+15.3%)	501 (+13.0%)
ディスプレイ材料	220	213	-7 (-3.3%)	-7 (-3.3%)	978	944	-34 (-3.5%)	-34 (-3.5%)
産業機械/電子材料 ファインケミカル	305	446	141 (+46.4%)	151 (+49.9%)	1,111	1,730	619 (+55.8%)	587 (+52.9%)
高機能材料	525	659	134 (+25.6%)	144 (+27.6%)	2,089	2,674	585 (+28.0%)	553 (+26.5%)
記録メディア	131	100	-31 (-22.7%)	-26 (-19.3%)	476	404	-72 (-15.0%)	-81 (-16.9%)
グラフィックスシステムインクジェット	676	642	-34 (-5.0%)	-34 (-5.0%)	2,558	2,509	-49 (-1.9%)	-119 (-4.7%)
その他	5	3	-2	-5	32	9	-23	-26
合計	2,571	2,743	172 (+6.7%)	184 (+7.1%)	8,995	10,026	1,031 (+11.5%)	828 (+9.2%)

*セグメント別取引明細表

(単位:億円)

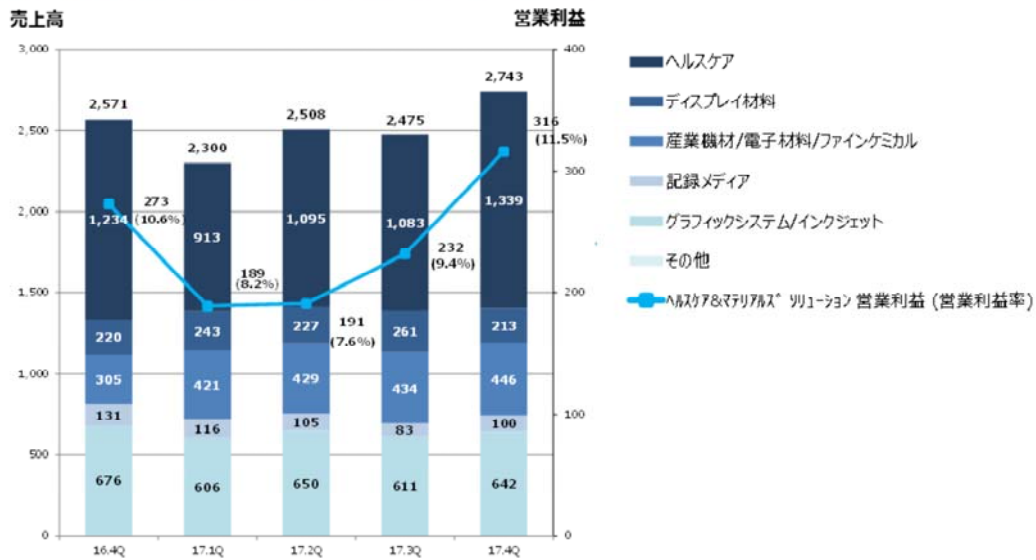
営業利益 【営業利益率】	4Q				通期			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	110 [8.9%]	133 [9.9%]	23 (+21.0%)	15 (+13.7%)	124 [3.2%]	207 [4.7%]	83 (+67.0%)	45 (+36.4%)
ヘルスケア&マテリアルズ	273 [10.6%]	316 [11.5%]	43 (+15.9%)	41 (+15.0%)	830 [9.2%]	928 [9.2%]	98 (+11.8%)	36 (+4.3%)

26

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション (単位: 億円)



<当スライドは配付資料です>

4Q/通期 業績

■ ドキュメント ソリューション

(単位：億円)

売上高	4Q				通期			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
オフィスプリンター	425	393	-32 (-7.8%)	-27 (-6.7%)	1,621	1,513	-108 (-6.7%)	-139 (-8.6%)
オフィスプロダクト&プリンター	1,608	1,534	-74 (-4.6%)	-80 (-5.0%)	6,240	6,100	-140 (-2.2%)	-243 (-3.9%)
プロダクションサービス	367	329	-38 (-10.3%)	-43 (-11.6%)	1,366	1,310	-56 (-4.1%)	-83 (-6.1%)
ソリューション&サービス	764	649	-115 (-15.1%)	-120 (-15.8%)	2,640	2,562	-78 (-3.0%)	-132 (-5.0%)
その他	146	129	-17 (-11.7%)	-20	563	506	-57 (-10.0%)	-81
合計	2,885	2,641	-244 (-8.5%)	-263 (-9.1%)	10,809	10,478	-331 (-3.1%)	-539 (-5.0%)

* セグメント別数値消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q				通期			
	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く	2016年度	2017年度	対前年度	為替影響除く
一時費用除く営業利益	261 [9.0%]	269 [10.2%]	8 (+3.1%)	-18 (-6.9%)	827 [7.6%]	840 [8.0%]	13 (+1.6%)	-20 (-2.4%)
ドキュメント	261 [9.0%]	-265	-526	-552	827 [7.6%]	140 [1.3%]	-687 (-83.1%)	-720 (-87.1%)

28

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション (単位: 億円)



<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位：億円)

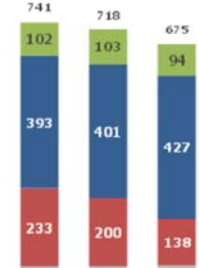
	2016年度		2017年度		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	41.5%	9,627	41.4%	10,065	438	(+4.5%)
米州	19.4%	4,504	19.0%	4,628	124	(+2.8%)
欧州	11.8%	2,739	12.9%	3,153	414	(+15.1%)
内、中国	11.8%	2,745	12.2%	2,961	216	(+7.9%)
アジア他	27.3%	6,352	26.7%	6,488	136	(+2.2%)
海外	58.5%	13,595	58.6%	14,269	674	(+5.0%)
合計	100.0%	23,222	100.0%	24,334	1,112	(+4.8%)

30

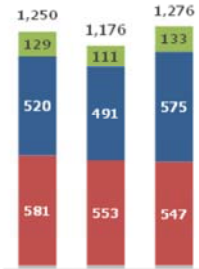
<当スライドは配付資料です>

設備投資、減価償却費

設備投資 (通期)



減価償却費 (通期)



15年度 16年度 17年度

(単位: 億円)

年度	4Q			通期			通期
	2015	2016	2017	2015	2016	2017	2018 (予想)
イメーシング	33	29	32	102	103	94	
ヘルスケア&マテリアルズ	180	154	154	393	401	427	
ドキュメント	60	51	19	233	200	138	
コーポレート	2	5	7	13	14	16	
設備投資 ※	275	239	212	741	718	675	800
イメーシング	44	23	35	129	111	133	
ヘルスケア&マテリアルズ	131	114	147	520	491	575	
ドキュメント	163	139	138	581	553	547	
コーポレート	5	5	3	20	21	21	
減価償却費	343	281	323	1,250	1,176	1,276	1,190
有形固定資産の減価償却費 ※	185	152	171	658	589	665	

※ ドキュメントソリューション部門等のレンタル資産を除く。

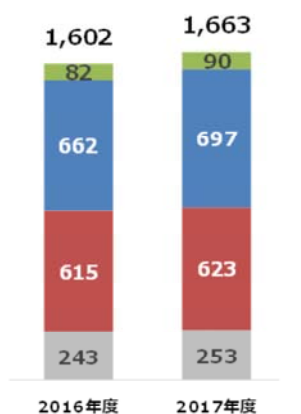
- イメーシング ソリューション
- ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション
- ドキュメント ソリューション
- コーポレート

<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費及び一般管理費

研究開発費（通期）

（単位：億円）



■ イメーシングソリューション
■ ヘルスケア&マテリアルズソリューション
■ ドキュメントソリューション
■ コーポレート

年度	4Q		通期		2018 (予想)
	2016	2017	2016	2017	
イメーシング	21	27	82	90	
ヘルスケア&マテリアルズ	179	187	662	697	
ドキュメント	140	210	615	623	
コーポレート	62	70	243	253	
研究開発費	402	494	1,602	1,663	1,610
<売上高比>	6.4%	7.9%	6.9%	6.8%	6.4%
販売費及び 一般管理費	1,516	1,900	5,981	6,730	
<売上高比>	24.0%	30.5%	25.8%	27.7%	

32

<当スライドは配付資料です>

為替、原材料価格、人員

為替

(単位：円)

	2016年度					2017年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
米ドル	108	102	110	114	108	111	111	113	108	111
ユーロ	122	114	118	121	119	122	130	133	133	130

原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2016年度					2017年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
銀	57	63	59	63	59	63	60	61	58	61

人員

(単位：人)

	2017.3末	2017.6末	2017.9末	2017.12末	2018.3末
連結	78,501	80,672	80,315	80,067	77,739

<当スライドは配付資料です>

2016年度4Q決算における過年度修正

(単位：億円)

	修正前 2016年度4Q	2016年度4Q	対修正前 2016年度4Q
売上高	6,299 100.0%	6,299 100.0%	0
営業利益	552 8.8%	540 8.6%	-12
税金等調整前 当期純利益	655 10.4%	643 10.2%	-12
当社株主帰属 当期純利益	523 8.3%	528 8.4%	+5
為替 : 米ドル	114円	114円	/
: ユーロ	121円	121円	

34

<当スライドは配付資料です>

2018年度 連結業績予想 (2018年5月18日時点)

(単位：億円)

	2017年度	2018年度 上期	2018年度 下期	2018年度	対前年度
売上高	24,334 100%	11,900 100%	13,200 100%	25,100 100%	766 +3.1%
営業利益	1,307 5.4%	750 6.3%	1,250 9.5%	2,000 8.0%	693 +53.0%
税金等調整前 当期純利益	1,978 8.1%	790 6.6%	1,260 9.5%	2,050 8.2%	72 +3.6%
当社株主帰属 当期純利益	1,407 5.8%	460 3.9%	840 6.4%	1,300 5.2%	-107 -7.6%

35

<当スライドは配付資料です>

パイプライン (2018年5月18日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬	経口	米国	Ph III
T-3811	キロン系合成抗菌薬	経口	日本	Ph III
T-2307	キノロン系合成抗菌薬	注射	中国	承認申請中
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	Ph I
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	日本	Ph II
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	Ph III
ITK-1	去勢抵抗性前立腺がん治療薬	注射	日本	Ph III
FF-10501	骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I
FF-10501	骨髄異形成症候群治療薬	経口	米国	Ph II
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-21101	進行・再発固形がん治療薬 (Armed抗体)	注射	米国	Ph I
F-1311	前立腺がん診断薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II
FF-10101	急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I
F-1515	神経内分泌腫瘍治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph I
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシクピリンボソム)	注射	米国	Ph I
F-1614	難治性褐色細胞腫治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II

※持分法適用会社の協和キリン富士フイルムバイオロジクス (FKB) のFKB327 (アダリムマブバイオシミラー) は、欧州申請中。FKBとアストラゼネカ社のJ.V.のFKB238 (ペバシズマブバイオシミラー) は、米国、欧州、その他でPh III実施中。

36

<当スライドは配付資料です>

ガバナンス強化の取り組み

新任社外取締役候補者の略歴

江田 麻季子 氏

(一般社団法人世界経済フォーラムJapan 日本代表)

<略歴>

早稲田大学、米国の大学院を経て、調査機関等で勤務。

2000年にインテル株式会社へ入社。その後、マーケティング本部長として、ブランド戦略などを統括。

2010年8月より2013年9月まで、香港を拠点にインテルのアジア太平洋地域のマーケティング活動を指揮。

2013年10月より2018年3月まで、インテル株式会社の代表取締役社長を務めた。

2018年4月に一般社団法人世界経済フォーラムJapan 日本代表に就任。

また、2016年9月より内閣府規制改革推進会議委員を務めている。

<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フイルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

富士フイルムホールディングス 統合報告書2017

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_library/integrated_reports/index.html

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- 2016年 12月 医薬品・再生医療事業説明会
- 2017年 3月 エレクトロニクスマテリアルズ（EM）事業説明会
- 2018年 3月 イメージングソリューション事業説明会

富士フイルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

<当スライドは配付資料です>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社
経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>